

# 東川町・ルーイエナ町（ラトビア） 交流事業

北海道東川町地域活性課

## 東川町について

東川町は、北海道のほぼ中央に位置し、道北の中核都市旭川市の中心部から13km、旭川空港から7kmの地点にあります。東部は大雪山連峰の最高峰旭岳（標高2,291m）をはじめとする山岳地帯で、日本最大の自然公園「大雪山国立公園」の区域の一部になっています。その大雪山の自然が蓄えた豊富な雪解け水によって、東川町は、全国的にも珍しい、北海道でも唯一の“上水道のない町”となっているなど、自然環境に恵まれています。

1985年、東川町は豊かな文化田園都市づくりをめざして、写真文化によって町づくりや生活づくり、そして人づくりをしようという「写真の町宣言」を行いました。同年から毎年夏に「東川町国際写真フェスティバル（愛称：東川町フォトフェスタ）」が開催されており、“写真の町東川”は国際的に知られています。

さらに、1994年からはじめられた、全国の高校の写真部やサークルを対象にして行われる写真大会「写真甲子園」は、今年で20回目を迎え、8月6日～9日、全国8ブロックから選抜された20校の代表選手が東川町に招へいされ、貴重な動植物が息づく大雪山国立公園周辺の自然、風土、暮らしなどを題材に写真を撮影し、熱戦が繰り広げられました。

## ラトビアとの交流

東川町とラトビアとの交流の端緒は、およそ20年前、同町出身の新聞記者が、旧ソ連から独立を果たすラトビア取材したことにさかのぼります。その後、同国写真展や、リガ市の日本語学校

へ文房具を贈る物資援助、そのお礼としてのライモンズ・パウルス文化大臣（当時。「百万本のバラ」の作曲者）の東川町訪問、高校生の交換留学、相互訪問、ラトビアの音楽家の招へい、東川町から太鼓を運んでの演奏会など、ユニークかつ多岐にわたる交流が民間主体で進められてきました。ラトビアが日本大使館を置くこととなり、初代駐日大使に任命されたヴァイヴァルス大使が着任された際、皇居での式典が終わったその足で東川町を訪れたほど、ラトビアと東川町との絆は深まっていました。

姉妹都市提携の機運が高まり、ラトビアとの交流開始から15年が経過した2008年、ヴァイヴァルス大使の仲立ちにより、大使の生まれ故郷であり町の規模も近い、同国北部のルーイエナ町と姉妹都市となりました。CIRウナさん町では3年前から、ラトビア出身のウナさんがCIR（国際交流員）として活躍しています。



ヴァイヴァルス大使(右)と町と姉妹都市となりました。CIRウナさん

## 姉妹都市提携5周年記念 ラトビア ルーイエナ文化交流事業

今回の交流事業は、住民参加型の「料理教室」「パーティー」が大きな特徴となっています。

7月14日～18日、グンティス・ルーイエナ町長以下総勢19人の訪問団が東川町を訪れました。役場での懇談、町内視察などの公式行事ののち、7月17日、ヴァイヴァルス大使の誕生日に合わせて4つのイベントが行われました。なお、本事業はクレア助成事業「地域国際化施策支援事業」に採

択され、開催されました。

### ①ヴァイヴァルス大使写真展オープニング

7月17日から31日まで、ヴァイヴァルス大使の写真展が開催され、17日10時、大使、ルーイエナ町長、東川町の合田副町長、東川町議会の浜辺議長、北海道東川ラトビア交流協会の青木会長によるテープカットが行われました。大使の撮った写真は、日本とラトビアの風景や人物が、両国の文化の差異と共通点とを同時に感じ取れる、大使ならではの独自の視点で切り取られています。訪問団の皆さんに、大使自ら撮影場所やテーマなどを説明されていました。



テープカット



訪問団に説明する大使  
(左から2番目)

### ②ラトビア料理教室

訪問団メンバーが先生となったこの教室には合計20人が参加。13時30分から、ラトビア料理「じゃがいものピューレ 肉と玉ねぎソースがけ」、「ライ麦パンのデザート」、「フルーツパイ」を作りました。通訳の方は1人、それ以外のコミュニケーション手段としては、片言の英語とジェスチャーしかない状況ですが、料理の基本は万国共通なのか、皆さん手際が良く、瞬く間に大量の材料が形を整えられ、オープンに吸い込まれていきます。会場はおいしそうな香りと、参加者の熱気と笑い声に包まれました。



白熱する料理教室



出来上がったラトビア料理

### ③ミニ日本料理教室

東川ラトビア交流協会の奥さま方が先生となり、日本料理のミニ講座も開催されました。作ったのは「天ぷら」。ナスなどの夏野菜を揚げましたが、

参加者の1人は、「材料はほかのものでもいいの？天ぷらを応用してぜひラトビアで揚げたいものがある」と、新料理のヒントをつかんだようでした。天ぷらを作る参加者



### ④フェアウェル&大使誕生日パーティー

イベントの最後を締めくくるのは、18時から公民館で行われた、訪問団フェアウェル&大使の誕生日パーティーでした。午後の料理教室で作ったラトビア料理と天ぷらが並び、手作りのアットホームな雰囲気の中、グンティス町長が日本語でスピーチを行い、会場は拍手喝采。その後、ウナさんらによるラトビア紹介、訪問団によるラトビアの歌とダンスなど、終始和やかな会となりました。



訪問団の入場



日本語でスピーチをされるルーイエナ町のグンティス町長

## おわりに

東川町とルーイエナ町との交流は、日本にラトビアを紹介する資料が皆無だった時代から、20年にわたる関係者の努力によって継続され、今や両町に揺るぎない信頼を生み出しています。グンティス町長のスピーチの中にも、「友情は、結ぶよりも維持することのほうが難しい」という言葉がありましたが、さまざまな困難を乗り越えて築き上げられた両町の絆が、今後さらに深まり強められることを願ってやみません。

### 【地域の国際交流・国際化を支援します！】

2014年度「地域国際化施策支援事業」についてのお問い合わせ

(財)自治体国際化協会交流親善課

03-5213-1723 (担当: 細川・与那嶺)